26　　灰を食べた盗人　　　　　　　　　　　　　文法　敬語②　補助動詞の敬語の訳

読解 登場人物の思いをつかむ

帝の寝室に忍び込んだ盗人が、そこにある灰を口に入れたかと思うと、急に盗みをやめてしまった。寝たふりをしてその様子を見ていた帝は、盗人を捕らえその真意を尋ねた。盗人は次のように答えた。

「我はと申し候ひしが子なり。幼くして父にり㋐おくれて後、堪へて世にあるべきも侍らず。さりとも、今更に人のとならんことも、親のため①心憂く思ひ給へて、㋑念じて過ごしⓐ侍りしかど、今は命も生くべきも侍らねば、盗人をこそⓑらめと覚えてⓒ侍るにとりて、並々の人の物は、の嘆き深く、取り得て侍るにつけて、もの清くも覚え侍らねば、かたじけなくもかくⓓ参りて、まづ物の欲しく侍りつるままに、灰を置かれて侍りけるを、さるべき物にこそと思ひて、これを食べつる程に、物の欲しさ治りて後、灰にて侍りけることを初めて悟り侍れば、『せめては、かやうの物をも食し侍りぬべかりけり。②よしなき心をおこし侍りけるものかな』と悔しく思ひて」なんどⓔ申す。帝つぶさにこのことを聞きⓕ給ひて、③御涙を流され、④感じ給ふ。

* 語注

方便＝手段、方法。

人の奴＝人に使われる身。

もの清くも＝何となく心地よくも。

せめては＝やむを得なければ。

【原文】

「我は某と申し候ひし大臣が子なり。幼くして父に罷りおくれて後、堪へて世にあるべき方便も侍らず。さりとも、今更に人の奴とならんことも、親のため心憂く思ひ給へて、念じて過ごし侍りしかど、今は命も生くべき策も侍らねば、盗人をこそ仕らめと覚えて侍るにとりて、並々の人の物は、主の嘆き深く、取り得て侍るにつけて、もの清くも覚え侍らねば、かたじけなくもかく参りて、まづ物の欲しく侍りつるままに、灰を置かれて侍りけるを、さるべき物にこそと思ひて、これを食べつる程に、物の欲しさ治りて後、灰にて侍りけることを初めて悟り侍れば、『せめては、かやうの物をも食し侍りぬべかりけり。よしなき心をおこし侍りけるものかな』と悔しく思ひて」なんど申す。帝つぶさにこのことを聞き給ひて、御涙を流され、感じ給ふ。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　〕が亡くなった後、生きていく手段として〔　　　　〕となることを選んで〔　　　〕の寝室へ忍び込んだが、最初に〔　　　〕を口にすると〔　　　　　　　　　　〕が治り、悔しい思いをしたという話を盗人が語り、それを聞いた〔　　　〕は〔　　　〕を流した。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐ～ⓕの敬語の説明として最も適当なものを選べ。〈１点×６〉

ア　尊敬の本動詞　　イ　尊敬の補助動詞　ウ　謙譲の本動詞

エ　謙譲の補助動詞　オ　丁寧の本動詞　　カ　丁寧の補助動詞

ⓐ〔　　　〕　ⓑ〔　　　〕　ⓒ〔　　　〕

ⓓ〔　　　〕　ⓔ〔　　　〕　ⓕ〔　　　〕

問四　チェック問題　［敬語②　補助動詞の敬語の訳］

次の傍線部を現代語訳せよ。〈1点×4〉

１　竹の中より見つけ聞こえたりしかど、…　　　（竹取物語）

２　（中宮は）「我をば思ふや」と問はせたまふ。 （枕草子）

３　からい目を見さぶらひて、…　　　　　　　　（枕草子）

４　（私が）見捨てたてまつる悲しくて、…　　　（更級日記）

１〔　　　　　　　　　　　　　〕　２〔　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　　　　　　　〕　４〔　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①・④について、それぞれの「給ふ」の敬語の種類を答え、現代語訳せよ。〈５点×２〉

①　種類＝〔　　　　　〕　訳＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

④　種類＝〔　　　　　〕　訳＝〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問六　傍線部②とは、どのような心か。三十字以内で答えよ。〈12点〉

〔

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問七　傍線部③とあるが、ここでの帝の涙はどのような思いを含んでいるか。最も適当なものを選べ。〈10点〉

ア　父親の死後、苦労しながらも父親の教えを守り実直に生き抜いていこうとした男の信念に共感する思い。

イ　父親や庶民に対する気遣いを失うことなく、また自らの行動を省みる男の誠実さを賛美する思い。

ウ　帝や人々が大切にする物品には決して手をつけることをせず、灰で満足する男の清廉さをむ思い。

エ　自分の身を盗人におとしめてでも帝に庶民の困窮ぶりを直訴しようとした男の覚悟に心打たれる思い。

〔　　　〕

【解答】

問一　父／盗人／帝／灰／物の欲しさ／帝／涙

問二　㋐＝先立たれる　㋑＝我慢する〈４点×２〉

問三　ⓐ＝カ　ⓑ＝ウ　ⓒ＝カ　ⓓ＝ウ　ⓔ＝ウ　ⓕ＝イ〈１点×６〉

問四　1＝見つけ申し上げたけれど、

　　　2＝お尋ねになる。

　　　3＝見まして、

　　　4＝見捨て申し上げることが〈１点×４〉

問五　①種類＝謙譲語　訳＝情けなく存じまして（思いまして・思い申し上げて）、

　　　④種類＝尊敬語　訳＝感動なさる。〈５点×２〉

問六　物を盗む欲望にまかせて、灰までも食べるというつまらない心。（29字）〈12点〉

問七　イ〈10点〉

【現代語訳】

「私はだれそれと申し上げました大臣の子どもである。幼い時に父に先立たれまして後、我慢して生きていくことができる手段もございません。そうかといっても、今さらに人に使われる身となるようなことも、親のことを思うと情けなく存じまして、我慢して過ごしましたが、今は生きながらえることができる手段もございませんので、盗人をいたそうと思われますことにつけて、普通の人の物は、持ち主の嘆きが深く、取って手に入れますにつけて、何となく心地よくも思われませんので、恐れ多くもこのように参上して、まず物が欲しくありました心にまかせて、灰を置かれてありましたのを、（食べるのに）適当な物であると思って、これを食べた時に、物の欲しさが治った後、灰でございましたことを初めて悟りましたので、『やむを得なければ、このような物をも食べることができますことよ。つまらない心を起こしましたものだなあ』と悔しく思って」などと申し上げる。帝は詳しくこのことをお聞きになって、自然と御涙を流し、感動なさる。

【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「今は命も生くべき策も侍らねば」（３行目）を現代語訳せよ。

問２　「かやうの物」（７行目）とは何か。本文中から抜き出せ。

問３　「食し侍りぬべかりけり」（７行目）の「ぬべかりけり」を品詞分解し、それぞれの文法的意味を答えよ。

【補充問題解答】

問１　今は生きながらえることができる手段もございませんので

問２　灰

問３　ぬ…強意　べかり…可能　けり…詠嘆